

【ねがいましては】

令和6年12月16日

KYOWA SCHOOL

第414号

「あっぱれ」

よく新聞で「ヒット記事」に出会うことがあります。まさに綺麗な華麗なヒットです。

時代の証言者というシリーズ物で、平野レミさん（歌手・料理愛好家）のものです。おじいさまがアメリカの方で、そのお孫さんにあたり、4分の1がアメリカ人といった方です。その彼女が高校生の時、なんとわたしが住んでいた学区の最も偏差値の高い高校へ進学していました。猛烈な進学校です（東大・早大・慶大あたりまえ）。

記事はそこでのお話になります。お昼休みでも、行間休みでも、皆、シーンとして勉強です。ちょっと考えられない風景です。レミさんにはかなり居心地が悪かったようで・・・。そんな高校2年生のある日の英語の授業です。

先生から英文の和訳をするように言われます。レミさん、そっとアンチョコ（ガイドブック）を取り出して、さも訳しているように読みきったそうです。すると「平野君、読んだところと訳したところが1ページ違っているぞ」と言われました。彼女は訳し終わってから言うなんて嫌な先生！頭にきて「先生、さようなら、皆さん、さようなら」と言い、そのまま家に帰ってしまったそうです。翌日も「行ってきます」と家を出て、山手線（JR山の手線）に乗ってぐるぐる回り、誰にも本当のことを言えなかつたそうです。そんなことを1週間ほど続けた後、意を決してお父さんのところへ行きます。何かもの書きをしているお父さんの背中へ向けて「学校やめたくなっちゃった」と打ち明けました。お父さんは振り返って彼女の顔を見、さっと眼鏡をはずし、すぐさま「わかった、やめろ」と一言。何も理由を聞きませんでした。

「どれだけ私が楽になったか。その父の姿を思い出すと今でも涙がでてきます。」と、書いています。

彼女はそのまま高校を中退することになり、お父さんからは「その代わり、好きなことを徹底的にやれよ」と言われたそうです。

その中退した高校ですが、レミさんが料理愛好家としてテレビなどに出るようになってから同期会に呼ばれたそうです。担任の先生からは、「レミは中退して自分の好きな道に進んでよかったです。一番イキイキしてるもんな」と、声をかけられたそうです。

さて、この爽快なできごと、レミさんの意思の表し方。「あっぱれ」です。とかく上から目線の学校の先生。間違っていたらすぐさま指摘してくれそうなもんですが、最後までだんまり・・・。ガイドブックを見ていたことがばれていたとしても、周りの生徒たちの前で大恥をかかせ続けることは、どれだけ心に大きな傷を作ってしまうか・・・。

そしてお父さんの一言です。それぞ「父」。レミさんの苦しみをしっかりと理解しています。本来ならばじっくりと何があったのか話を聞いてくれる姿が想像されますが、そんなこともなんのその・・・。一言で終わってしまうくらいに娘への「信頼」は空高くへ伸びていました。そこから芽生えた「安心感」がレミさんにそそがれました。

子どもたちは日々、何食わぬ顔で学校に通っているように見えますが、イヤー結構悩みながら過ごしているようです。特に精神的発達は女の子がかなり早い段階で成長します。日本の歴史的な学び方の一つに「忍」があります。どんなにつらくてもガマンをするんだよ！といったような風潮です。

相田みつをさんの詩に「がまんをするんだよ がまんをするんだよ くやしいだろうがね そこをがまんを するんだよ そうすれば 人のかなしみや くるしみが よくわかつてくるから」がありますが、そのガマンの内容をしっかりと学ぶことが大切だと思いました。明らかにどう考えても「ひと」の範囲を超えてると感じるようであれば、その瞬間、即行動に出られる「勇気」を持つことは「ひと」として持つべき大切な権利なはずです。それが全くと言っていいくらい度外視されている空間があります。

例えば宿題です。宿題は強制です。「～しなさい」の典型的な具体物です。その目的が良く解釈すれば、「家庭学習の習慣づけになる」という考え方です。しかし私は「異」を唱えたいと思います。

私は「学び」というものは「本気」があって初めて「真の学び」と言えると信じています。やってあればいい、書いてあればいい、という形だけの取り組みでは学びの大切さが土台から損なわれてしまい、「宿題が学びだ」という間違った感覚を植えこんでしまうと思っています。

ひとり学校から帰ってくる子。家には誰もいません。ご両親ともにお仕事です。そんな「シーン」と静まり返った家に帰ってきて、子はすぐさま何をするか・・・すかさずテレビのスイッチです。当たり前だと感じます。その子はテレビを正面に見ながら宿題を始めます。その状態がその子にとっての「正しい学び方」として徐々に浸透していきます。その心の状態が「学ぶことだ」です。するとそのこころはそのまま学校でも使用可能になります。理由は「叱られなければ良い」です。テレビ見ながら宿題をしても誰からも叱られません。

子どもたちのものさしは、このようにしてゆがんだものへと育っていきます。

レミさんのものさし、すべての子どもたちにプレゼントできないでしょうか。

「先生、宿題はどうしてあるのですか。この前出した宿題、間違えがあったのに、マルになっていました。」